

図書館だより

2017年1月 (No. 118)

【開館時間】 10:00~19:00

【休館日】 毎月第3月曜日 (1月は16日です)
12月28日から1月4日まで

千歳市立図書館

指定管理者(株)山三ふじや

〒066-0046 千歳市真町2196番地の1

TEL 0123-26-2131

E-mail toshokan@e-fujiya.com

ホームページ <http://library-city-chitose.jp>

第29回

合同おはなし会



図書館で活動しているおはなし会グループが大集合!

平成29年2月12日(日) 11:00~12:00

千歳市立図書館 2階AV室



プログラム

- 1 日曜おはなし会 しゃぼんだま 『カミナリむすめ』 (OHP)
- 2 おはなしぐるんぱ 『キャベツくん』 (パネルシアター)
- 3 おはなし会 くりねずみ 『ねずみのよめいり』 (ペープサート)
- 4 おはなしの会 ピノキオ 『三びきのやぎのがらがらどん』 (エプロンシアター)



お申込みは不要です。直接、会場にお越しください♪

おはなし会

1階おはなしコーナー

- | | |
|---------------|----------------|
| 7日(土) 14:00~ | おはなしぐるんぱ |
| 8日(日) 11:30~ | 日曜おはなし会 しゃぼんだま |
| 14日(土) 11:00~ | くりねずみ (図書館職員) |
| 18日(水) 11:00~ | おはなしの会 ピノキオ |
| 22日(日) 11:30~ | 日曜おはなし会 しゃぼんだま |
| 28日(土) 11:00~ | くりねずみ (図書館職員) |

上映会 2階AV室

- 1月8日(日)
14:00~15:45
「メアリーと秘密の王国」
[2013年作品]
- 1月22日(日)
14:00~16:00
「映画 深夜食堂」
[2015年作品]
監督: 松岡 錠司
出演: 小林 薫 高岡 早紀
多部 未華子



今月の「赤ちゃんタイム」は1月23日(月) 10:30~12:00です!



～新着図書・視聴覚資料～

12月に入った本の一部です。



すしレシピ

重信 初江 監修 朝日新聞出版編著
／朝日新聞出版

巻き寿司、包み寿司、押し寿司など、家庭で楽しめる寿司レシピが多数収録。基本となる酢飯作りから、お寿司と一緒にいただく汁ものも紹介。

<596 ス>



やさしい、いけばなの基本

竹中 麗湖 著／世界文化社

人気の花や、四季のイベントを彩る花を、センスよくあしらうためのいけばな入門書。最低限知っておきたい基本知識と写真によるいけ方解説で、誰でも気軽に始められる。

<793 タ>



「茶の湯」の密室

愛川 晶 著／原書房

三桜亭馬伝の妻亮子は、知り合いから本格的な茶会に誘われた。緊張の中、彼女はほんの一瞬、本来いるはずもない猫の姿を見てしまう。五年ぶりに復活した本格落語ミステリー「紅梅亭」シリーズ第5弾。

<913 ア>



書楼弔堂 炎屋

京極 夏彦 著／集英社

昭和30年代初頭、考え事をしながら歩いていた塔子は、松岡、田山と名乗る二人の男と出会う。彼らはある書店を探していた。「書楼弔堂」、そこは迷える人々を導く場所。

<913 キ>



車夫 2

いとう みく 作／小峰書店

にぎわいを見せる浅草を舞台に、人力車の引き手である車夫の世界へと入った少年。彼と、彼を取り巻く周囲の人々との心の交流を描いた連作短編集、第2弾。全6編収録。

<Y91 イ>



しちふくじん

立川 志の輔 作 中川 学 絵／岩崎書店

明日にせまるかくし芸大会。友だちはみんな特技があるのに、ぼくだけ何もできない。困っていたぼくのところにやってきたのは、なんと七福神だった。思わず笑ってしまうお笑い絵本。

<E シ>

視聴覚資料は今年度入ったものの一部です。館内でご利用いただけます。



あん

監督 河瀬 直美

出演 樹木 希林 永瀬 正敏 ほか
どら焼き屋の店長千太郎の店に、求人募集をみて、一人の老女、徳江が現れる。彼女の作るあんはおいしく評判に。しかし心ない噂が、彼らの運命を大きく変えていく…。

<V11-3572>



オデッセイ

監督 リドリー・スコット

出演 マット・ディモン ほか

火星探査の任務で、死亡したと思われていたワトニーは生きていた。生存を知ったNASAや仲間によって、一刻を争う中、救出計画が実行される。世界中が彼の帰還を見守る。

<V12-3893>

私のオススメ!



『墮落論 現代語訳名作シリーズ5』

坂口安吾//作 松尾清貴//現代語訳 理論社 <914 ゲ>

終戦間もない昭和21年、敗戦により大きく傷ついた日本人の前に突如として現れた「墮落論」は、圧倒的な被害を受け自信を喪失した人々に、強い衝撃を与えました。戦争に負け、人は落ちたのではない。人間だから落ちるのだ——既存の価値観が破壊された世で、安吾は激しくも優しく読者に語りかけるのです、「生きろ」と。

「墮落論」ほか、「続・墮落論」を含む5編が収録。読みやすく現代語訳されているので、気軽に読むことができます。